

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
岩倉市子ども発達支援施設あゆみの家		8年 6月 25日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		部屋を間仕切りでわけることができるので、身体を動かす空間と座って遊ぶ空間と分けて過ごすようにしている。	子どもの動きに気を配り、安全に過ごせるよう働きかけていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		クリーム色の無地の壁、無地のカーテンで玩具を隠し、刺激の少ない環境を設定している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		定期的に玩具の消毒や玩具の種類・量など点検している。素足であそべるよう清掃している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		一人ひとりに合わせた気持ちの切り替えをするための時間や場所に配慮している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		目標管理を実施。療育前の打ち合わせをし、その都度疑問に感じたことを伝え合い、全職員で見直し、対応する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			評価を受け止め改善に努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		療育や業務における疑問を伝え合い、子どもや保護者の最善の利益となるよう努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	あゆみの家運営協議会において評価、改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		積極的に参加し、研修後職員間で共有している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		保健センターからの情報や専門療育の先生から情報を得て課題を立てている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		日々子どもの姿を職員間で共有し、子どもが“わかる”“楽しい”につながる支援を立てるよう職員間で検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		発達支援ツールを使用し、子どもの姿と照らし合わせ確認したり、専門療育の先生とのカンファレンスからも状況把握に努めている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		わかる・できることを楽しみ、家庭や地域社会での生活にいかされるよう本人支援をしている。 家族参観には父や兄弟、祖父母に様子をみてもらったり、父親交流会を行い理解を深めている。地域の保育園、幼稚園、小学校とも連携する機会がある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		毎月活動を全職員で立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		生活の流れは固定化しつつも、月毎や期毎であそびのプログラムを替え楽しめるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		活動内容や職員の動きなど確認している。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	5		振り分けをし、子どもの姿を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		支援について記録し、共有し進めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		児童発達支援計画の用紙の中に保護者の意見を書く欄があり、必要に応じて見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理責任者（所長）が参加。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		保健センターとは連携を密にし、療育支援事業等において福祉、保育、教育等の機関とつながり支援を学び合う機会がある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		併行利用や移行先が決まっている場合は、保護者に確認し、子どもの支援について情報共有をしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		就学移行の子どもが利用しているときは、保護者に確認の上、小学校との情報共有を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	5		子ども部会での学習会や交流会に参加し、センターとの連携の機会がある。障害児等療育支援事業においても助言をいただいている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		希望者は公立の保育園へ交流に保護者と行っている。隣接する保育園に散歩に出かける機会もある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日頃から子ども一人ひとりのできたやわかるに注目し、伝え合うようにしている。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		両親懇談や家族参観、講演会を行っている。OB保護者が来援する機会もあり、在園の保護者を応援してくれている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		重要事項説明書、契約書を使い説明し入園手続きを進めている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		個人懇談や両親懇談を行い、保護者の思いをよく聴く。今の子どもの姿を共有し、安心して過ごせる環境が手立てであることを確認し支援計画に活かしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		年4回個別支援計画を作成し、保護者に同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		年3回の懇談会を行っている。随時相談にも応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		母親教室を行い保護者同士の交流をしたり、家族参観や運動会など家族の方にも参加していただき父親交流を行ったりしている。	弟妹を連れて通われる際には、下の子の最善の利益も考慮していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者からの相談や申し入れには速やかに対応することに努める。言語聴覚士や作業療法士、臨床心理士に相談することもできる。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		月に1回あゆみだよりを発信している。	

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		職員全員に法令遵守等に係る基本方針の周知を行っている。専門療育の講師にも秘密情報保護の誓約書を提出してもらっている。書類は鍵のかかる書庫に保管。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		保護者一人ひとりに合わせて、伝わる手立てを講じるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		地域の人に誕生会等のお楽しみ会に参加していただいたり、運動会に障がい者団体の代表者や民生委員等に参加していただいている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		毎月緊急時を想定した避難訓練を行っている。親子で参加し、職員と保護者と緊急時の行動を想定し訓練している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		事前にも聞いているが、保護者がいるので一緒に対応に努めている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギー児がいる際は、机を離したり、子どもが誤食の無いよう保護者と共に対応する。	アレルギー児がいる際は、机を離したり、子どもが誤食の無いよう保護者と共に対応する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		職員間で安全計画を共有し、支援している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		避難訓練と共に周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		毎日のヒヤリハットをチェック表に記録し、職員間で共有、改善策を話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		毎年虐待防止の研修会に参加し、職場にて園内研修報告をし周知している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束はしていません。	